

9 アルマの重ね葺き工法

9-4 施工前の確認事項

重要 必ずご確認ください！

既存屋根材がセメント系新生瓦の場合、石綿(アスベスト)を含有しているかどうかをご確認ください。既存屋根材が石綿含有建材の場合、建築物の解体工事における各種法令を遵守し、適切に対応してください。石綿(アスベスト)が含まれている屋根材の場合、専用の施工方法にて下葺材の施工を行ってください。

▼既存屋根材がセメント系新生瓦で石綿(アスベスト)を含む場合

⇒「ニチハ『あんしん』屋根カバー工法」による下葺材の施工

〔適用下葺材〕 アスファルトルーフィング940(JIS A 6005)または改質アスファルトルーフィング
(片面粘着層のないものに限る)

▼既存屋根材がセメント系新生瓦で石綿(アスベスト)を含まない場合

⇒片面粘着層付下葺材を使用、もしくは石綿含有時の専用工法のいずれか

〔適用下葺材〕 厚さ1.0mm以上の片面粘着層付き改質アスファルトルーフィングまたは
「ニチハ『あんしん』屋根カバー工法」適用下葺材

▼既存屋根材がアスファルトシングルの場合

⇒片面粘着層付下葺材を使用、もしくは石綿含有時の専用工法のいずれか

※片面粘着層付下葺材を施工する際、既存屋根材の表面状態により、十分な接着が得られない場合があるため、必要に応じて板金、釘などを用いて下葺材を仮留めしてください。

〔適用下葺材〕 厚さ1.0mm以上の片面粘着層付き改質アスファルトルーフィングまたは
「ニチハ『あんしん』屋根カバー工法」適用下葺材

1) 設計施工基準

- 建物の高さは16m以下です。
- 既存垂木間隔が500mm以下であることを確認してください。
- 既存屋根材(セメント系新生瓦、アスファルトシングル)の厚みは6mm以下です。
- 既存野地板は厚みが12mm以上の普通合板同等以上の木製野地板です。
- 屋根勾配は原則3.5寸以上、27.5寸(約70度)以下です。一般地域で緩勾配(2.5寸以上3.5寸未満)の場合は専用の施工仕様に従ってください。
- 一般地域の流れ長さは20m以下です。緩勾配(2.5寸以上3.5寸未満)の場合は、流れ長さ10m以下です。
- 多雪地域(垂直積雪量がおおよそ80cmを超える地域)においては、勾配は3.5寸以上(27.5寸以下)、流れ長さは下表の通りとし、多雪地域専用の施工仕様に従ってください。
- 基準風速が38m/s以上の強風地域では専用の施工方法(P191)にて行ってください。
- 小屋裏結露防止のため、住宅金融支援機構仕様書に準じた小屋裏換気を必ず設けてください。

勾配と最大流れ長さ、下葺材の施工基準表

勾配			緩勾配		3.5/10	4.0/10	4.5/10	5寸以上
			2.5/10	3.0/10				
一般地域	最大流れ長さ		10m以下		20m以下			
	既存屋根	石綿なし	重ね葺き仕様					
		石綿あり	『あんしん』屋根カバー工法(緩勾配)		『あんしん』屋根カバー工法(一般)			
多雪地域	最大流れ長さ		施工不可	10m以下	15m以下		20m以下	
	既存屋根	石綿なし		重ね葺き仕様				
		石綿あり		『あんしん』屋根カバー工法(多雪)			『あんしん』屋根カバー工法(一般)	

下葺材の施工方法については「下葺材の施工」(P187～190)をご参照ください。